

技術士への軌跡（うむランの場合）

---

<http://ameblo.jp/umranz/>

---

## 技術士（建設部門）合格までの記録

### 1.はじめに

年齢:44 歳

職業:地方建設業の技術者

受験遍歴

一次試験:平成 15 年度(一回で合格)

二次試験:

平成 16,17 年度は、申し込こむも未受験

平成 19~21 年度は、三年連続でオールB判定

平成 22 年度：筆記、口頭試験合格、技術士登録

合格まで実に足掛け七年かかりましたが、こんなグズグズ受験生でも技術士になれました。  
職業や立場年齢など、皆さままででしょうが、あきらめなければ誰でも技術士になれると思います。

奇しくも、合格発表があった一週間後の3月11日、技術士登録の申請書類を投函した3時間後、  
東日本大震災に見舞われ事態は一変しました。

そして、復旧工事で駆けずり回っていたさなかに、登録証が届きました。

非常に重い船出となりましたが、これも宿命であると思います。

つたない記録ですが、私の経験を反面教師として参考にしていただけましたら幸いです。

渋谷の雑踏、この先に聖地フォーラム8がある！



## 2. 備忘録（二次試験）

### 平成19年、初めての二次試験受験【建設一般：B、専門：B】

当時勤めていた会社（某ゼネコン）で、現場が終わり支店で総合評価の技術提案業務についていた。思えば試験対策などほとんどしていない状態で、直前まで受けるかどうか迷っていた。

そして試験当日、私の前の席には去年まで同じ現場にいた後輩が座った。

覚えているのは、暑かったことと、大学の長い机の上にたくさん残った消しゴムのカスぐらいだった。

・・・撃沈

ちなみにこの後輩は、一回目の受験で見事技術士となった。

### 平成20年、二回目の受験【建設一般：B、専門：B】

去年の受験後しばらくして転勤となり、東京へ単身赴任していた。

申込書類を虎ノ門の田中山ビルに直接持ち込み気合を入れるも、その時、早期退職を決意しており、なんだか曖昧な感じが漂っていた。

試験の約一か月前に、二十年近く務めてきた会社を早期退職し、つかの間の開放感に浸った状態で受験、結果は当然・・・撃沈

### 平成21年、三回目の受験【建設一般：B、専門：B】

去年の受験から一か月後の九月、仙台市内の建設業者へ中途入社した。

社内に技術士はおらず、情報不足に一抹の不安を感じる。4月、身銭を切って sukiyaki 塾の受験セミナーに初参加してみた。

会場には発注先の担当者がいて、熱心にビデオ撮影していた。このほかにも熱心な受験生を目の当たりにしたことで、モチベーションアップになった。しかしグズグズ癖は治らずなかなか勉強に身が入らない。6月中旬頃から、仕事を通じて紹介された講師に添削をお願いするも、時すでに遅し。

結果はこれまた当然・・・沈没

かくして、三年連続オール B 判定、

「こりゃもう絶対無理だな」と思う一方で、「何が悪かったのか？」と自問自答する自分がいた。

しかし、結果はうそをつかない。技術士となって改めて振り返ると、ルールを無視した独りよがりの論文（と呼ぶには余りにも恥ずかしい駄文）を書いていたのだから、当然の結果である。

平成22年、四回目の受験【建設一般：A、専門：A】

さて、性懲りもなく四回目の受験である。

“四度目の正直”、いや“三度あることは四度ある”など勝手につぶやきながらも、今思えばこの年は何かが違っていた。

さて、私がとった“行動”とは？

**【平成22年四回目の受験】**

まず、おこなったことは冷静な分析である。

具体的に何点かあげると、

- ①勉強時間の不足（無理な計画⇒計画倒れ）
- ②そもそも、「技術士試験」の勉強をしていなかった。
- ③あれもこれも手を付けていた（結局どれも身にならず）
- ④根本的に何のために受けているのかが、曖昧だった。

特に④に関して、

この三年間は、現場から本社への移動、さらに早期退職に再就職と、個人的には結構大きな動きがあり、そのような状況下で技術士に挑戦してきた。

しかし、ここで極々素朴な疑問がわいてきた。

・ ・ はて？俺はいったい何のために受験していたのだろうか？？？？

そこで、

背水の陣で挑む今年は、技術士になることが目的ではなく、「技術士のその先を目指したい」、また「技術屋たるもの、技術士くらい獲って当たり前！」と、自分にプレッシャーをかけて臨むことにした。

そして平成22年度は、徹底的に手書きにこだわる“Hero塾”に入塾した。

<http://www.gijyutsushijyuku.com/index.html>

### 3. 私にとっての勉強法

#### 1) 【建設一般】

Hero 塾では、まず“自分で予想問題を考え”、決められた締切までに“論文を手書き”し、添削を受け、さらに Skype によるフォローを繰り返すという勉強法であった。

しかし案の定グズグズ受験生たる私は、いつも締切ギリギリに提出、ファミレスの片隅で鉛筆を走らせながら昼食をとることもしばしば。

しかも論文の点数もかなりの低空飛行でのスタートであった。

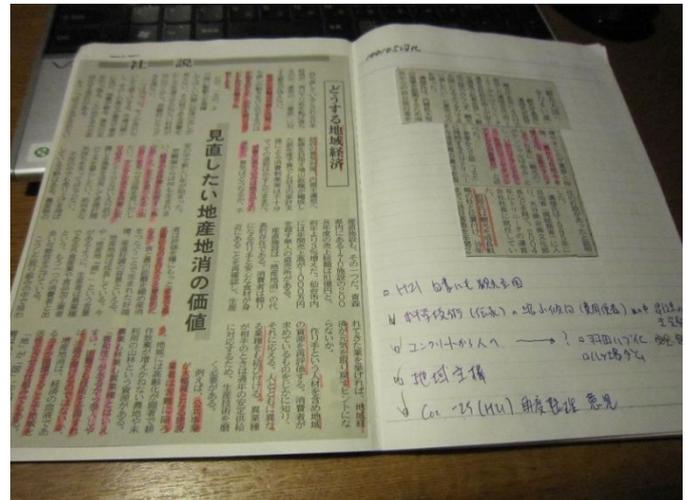
塾生の中には、3月、4月の時点で高得点を挙げる論文も多々あり、正直焦ったが試験は8月である。ここは焦らず、自分の合格パターンを習得しようと気を落ち着かせた。

いっぽう他の塾生の、グッとくる文節は、しっかりちやっかり拝借した。

当然業務をこなしながらの勉強であり、夜は効率がガクッと落ちる。(無理な禁酒はしなかった) このため、朝会社へ行くまでの時間に他の塾生の高得点論文を iPhone に録音し、移動中の車中で聞いたり、予想問題にヒットする新聞記事をスクラップしたりした。

ちなみに、私は普段からテレビ・新聞(スポーツ新聞は見ます)を見ないが、受験勉強中は限定でローカル新聞を購読していた。

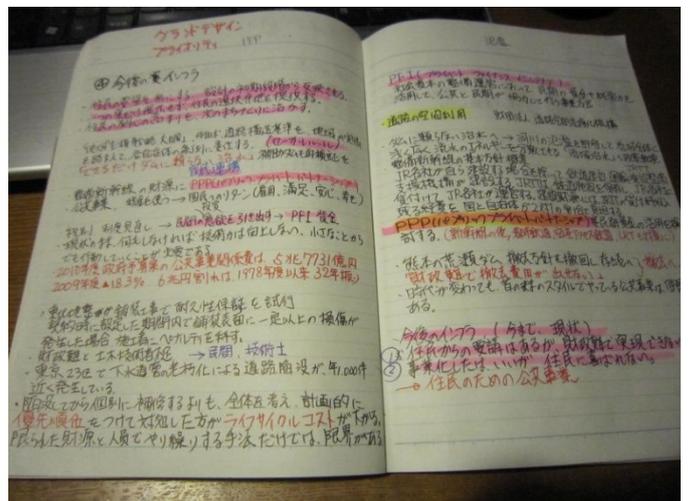
右の写真はスクラップノートで、数字や論文に使えるような箇所にアンダーラインを引き、論文に活用した。



また予想問題を作ることにより、“雑誌やニュースなどに目を通していても、アンテナが敏感にキーワードをキャッチするようになった。

当たり外れはともかく、とにかく自分で予想問題を作ることをお勧めする。

右の写真は、「日経コンストラクション」から、【今後のインフラについて】に関する文章を書き出したもの。



情報は、インターネットで簡単に入手できるが、試験は手書きである。やはり、ノートを作って鉛筆で書くのが良いと思う。

参考までに、私が作った予想問題は以下の通り

- ①地域の活性化（地域主権）
- ②地球環境問題（温暖化緩和策）
- ③安全・安心（地震対策、地球温暖化適応策）
- ④現状を踏まえた今後の社会資本整備について
- ⑤観光立国
- ⑥東アジア・グローバル問題

結果として③が出題されたが、予想問題すべての論文は書いていない。

大事なことは、自分の合格論文のパターン（型）を習得することと、アンテナを張ってキーワードをキャッチすることと、考える。

これは、専門分野においても同様である。

こうして、スタートダッシュで出遅れ、ゴールデンウィーク過ぎまで続いていた低空飛行が、6月くらいからは、上手く表現できないが、「あれっ？」という感覚とともに、点数に反映されるようになってきた。そう、なんとなく自分の“型”が見えてきたのである。（Heroさんに感謝です）

また4月末に、聖地フォーラム8でHero塾セミナーにも参加した。

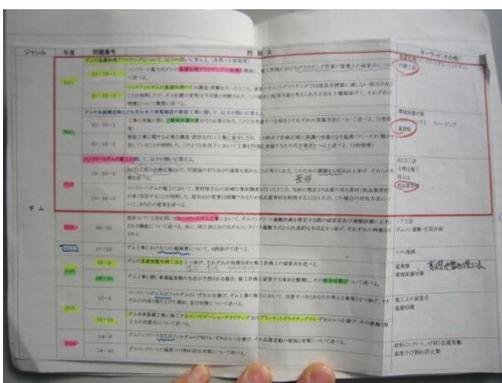
フォーラム8には11月にも口答試験の模擬試験に行き、結局本番を合わせて3回足を運んだ。

身銭を切ること、他の受験生と情報をやり取りすることは、モチベーションアップにもつながると思う。

## 2)【専門分野】



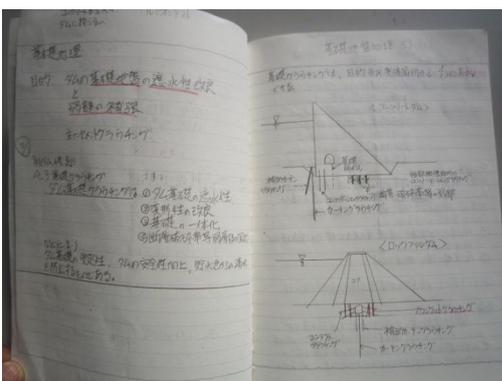
専門分野に関しては、それなりの知識はあるが、それが体系的に整理されていないことが弱点であった気がする。このため、まずはノートを作り、過去問題をじっくり眺め、出題分野と傾向をつかみ、自分の弱点を補う勉強法をとった。



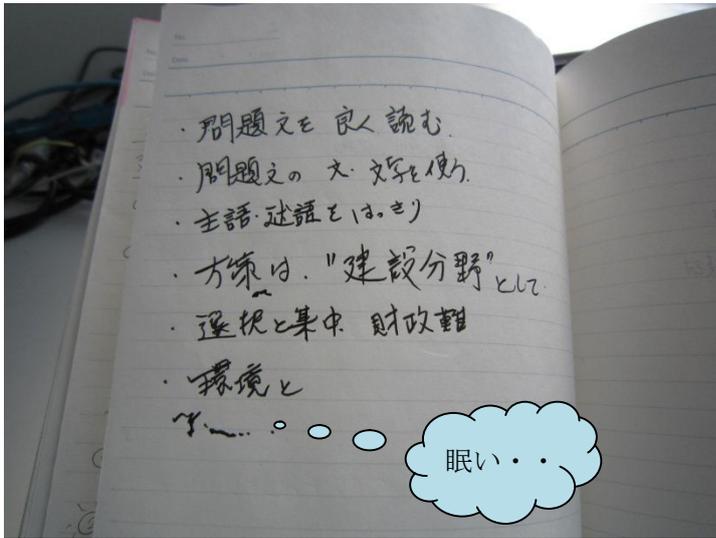
左の写真は、専門分野（施工計画施工設備及び積算）の過去問題の一覧表

重要な箇所や苦手な箇所、わかっているけど、実は怪しいと思われるところに印をつけ、再度手書きして頭に入れた。

とはいってもこの年は、建設一般に傾倒していたため、論文として完成させたものはなかった。



つらつら書いたがまとめると、  
建設一般、専門分野ともこんなとこだらうか。



←筆記試験一週間前にノートに書いた。  
最後のほうは、眠くてミミズが這ったようになっている。

少なくとも「俺はこんなことまで知っているんだ」なんて気を張らずに、素直に問題文に書いてある文字を使うこと。

技術士論文には、難しい言葉づかいや格好をつけた言い回しより、柳の枝のごとく、しなやかさが重要だと感じる。

こうして迎えた8月の筆記試験では、例年のように消しゴムのカスが出ることなく、自然に手が動いてくれた。

周りでは試験開始とともに、カタカタと鉛筆を走らせる受験生もいたが、ここは深呼吸ひとつ。問題文をよく読み、キーワードにアンダーラインを引いて、文章を組み立てる。そうすると、これまで“手”で書いてきたいろいろな文章が頭に浮かんできた。

約三ヶ月後の10月29日、4回目にして初めて自分の受験番号を確認した。  
小さなガッツポーズとともに、体の力が抜けたのを覚えている。

さて、いよいよ聖地に乗り込む時が来た！

しかし、技術士試験の神髄はこれからであった。。。。。

#### 4. 技術的体験論文・口答試験



技術的体験論文は、3月頃下書きをしていた。  
しかし筆記試験合格から提出までの短い間で、何度も何度も書き直した。(またもやギリギリ)

実は、筆記試験合格⇒技術的体験論文提出⇒口答試験までの一連の日々が、強烈にタイトで重圧感があった。

口答試験にも言えることだが、できることなら受験申込みを終えた時点で、口答試験で聞かれるであろう技術士受験の動機や、自分の体験論文をしっかり説明できるように、また把握しておくことをお勧めする。

想定問答集をつくったり、経歴説明をこれまた iPhone に吹き込み、車中でひとりつぶやいた。  
また、最近現場を離れ、指導する立場となってきたため、何年も温めてきた体験業務がだんだん色褪せてきたことにも一抹の不安があった。

11月末、Hero 塾による模擬面接を経て、迎えた12月某日の口答試験当日  
ちょっと肌寒い渋谷に降り立ち、聖地へ向かう途中のロイヤルホストでドリアを食べながら想定問答集を眺めたが、あまり頭には入らなかった。結果から言えば、本番では想定問答集で準備したことはあまり質問されなかった。(しかし、準備する行為が重要なんです)

試験時間は45分たっぷり、質問は主に体験論文についてであった。  
特に緊張はしなかったが、要所要所で「この質問にクリアしたら○かな」というハードルの質問があったように思う。

試験官や論文内容、業種、年齢などみな一様ではないため、具体的問答は割愛するが、とにかく自信を持って答えよう。

## 5. おわりに

年度末の応札業務や、現場支援で忘れかけてた平成23年3月4日（金）早朝、受験番号と、氏名（官報）を確認した。

今思えば、私一人の力では到底無理であった。  
家族をはじめ、Hero 塾々長や貴重な時間を割いて添削していただいた方々に感謝あるのみ。

受験生の中には、今回の大震災により物理的に受験ができない方や、モチベーションが落ちてしまった方もいることでしょう。

確かに、技術士となってすぐに状況が一変するわけでもありません。私も四月現在、復旧工事に従事しています。

しかし、こういう時だからこそ、技術士に求められる意義と期待は大きいと思います。

グズグズ受験生の私でも合格できたのですから、皆さんならきっと大丈夫です。

『技術士のその先を目指しましょう！』

以上